



登る

1月の終わりに、来年度の新入学児童保護者説明会を行いました。入学までおよそ2カ月となり、新入生の皆さんも、保護者の皆さんも準備を進められていることでしょうか。今、この便りを読まれている方の中には、「そんな会もあったなあ」と懐かしく感じられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回の説明会でお話した内容です。

「学校は、知識を学び、心身を鍛える場です。登校するという言葉をご存じだと思いますが、これには登るといふ字が使われています。山に登ることと同じように自らを鍛える場所であるから、この字が使われているのです。保護者の皆様もご経験があるかと思いますが、学校は不便なことが多いです。一つの教室にたくさんの人間が集まって座学をし、寒い中半ズボンで体育を



します。他人との関わりに悩むこともあるでしょう。でも、そこでこそ子どもたちは自分の力で生きていく力を身につけていきます。友達とけんかをすることもあるでしょう、寒くて登校がストレスになることもあるでしょう。そこで単にストレスを取り除くのではなく、子どもの気持ちに寄り添いながら、自らを鍛える場に誘う、「いってらっしゃい」の言葉は、子どもの成長を願う愛情のこもった親の特権だと思います。」

「子どもの成長に不可欠なものは『思い通りにならない事態（世界からの押し返し）』である」（「叱らない」が子どもを苦しめる（ちくまプリマー新書）より）



子どもは1歳を過ぎたころから外の世界と本格的に関わり始めるのですが、分別のつかない子どもですからやっではいけないことをたくさんやります。その時に親を中心とした外の世界に求められるものは、子どもの行動に対して適切に「押し返し」ということだそうです。簡単に言えば、叱られる、止められる、諫められるということです。現代には「子どもの世界を大事にしてほしい」という風潮もありますが、子どもが社会的な存在として成熟していくためには、こうした「世界からの押し返し」を経て、現実に合わせて自分を調整するという経験が絶対に必要なのです。子どもが嫌なことを周りの大人や親が代わりに排除する状況は、「何でも自分の思い通りになる」といった誤った万能感を子どもに与えてしまいます。これから生きていくうえで思い通りになることなど少ないですから、毎日が不満だらけになるでしょう。適切な「押し返し」のできる応援団でありたいものです。

お知らせ

2月10日に運動場の総合ジムのネットを繋ぐひもが切れているのが見つかりました。子どもたちにも確認したうえで、市教委に報告し、警察にも相談しました。警察の方が言われるには、現時点では故意なのかそうでないのかは分からないということでした。学校管理下以外の事案には学校では対応することができません。子どもたちの安全を守るためにも、情報提供等ありましたらご協力をお願いします。

